

第79回 全国都市問題会議報告書

平成29年11月17日

田中 学 議長 様

公明党議員団

参加者・報告者 谷口 美保子

「ひとつがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」

～新しい風をつかむまちづくり～

日 程 平成29年11月9日（木）～10日（金）

場 所 那覇市 沖縄県立武道館

第一日目午後より参加

【一般報告】

①人口減少社会の実像と都市自治体の役割

—人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か？—

講師 首都大学東京大学院人文科学研究科准教授 山下 祐介氏

内容・・・地方消滅から地方創生へ、東京一極集中と人口減少社会、人の集中解消には地方分権以外にはない。人口減の悪循環をどう読み解くか？人口減でも財政難でも可能な持続的なインフラ・サービスの維持を実現することである。どこにいても安心して暮らせること。その上での競争なら、切磋琢磨になる。人口ビジョン（本来の）の考え方と総合戦略のあり方はまち・ひと・しごとの好循環を作るということが本来である。人口減少問題を解く手がかりは、競争でも、稼ぐことでもなく、適切に財を分配し、全体を調整することが出来るかどうかである。

成長社会の限界—リスク社会から、リスク対応社会を経て、安定持続社会へ。これが人口減少社会に向き合う最大の課題である。さらには人口問題を解決していくのに必要なきめ細やかな住民の参加と連携の促進、協働を前提とした政策形成の場づくりこそが、本当に求められているものなのである。

感想・・・市民が全て行政に依存しているという発言があった。全てとは言わ

ないがそういう部分が確かに感じられる。協働というからにはもっと市民の方々の意見を聞く場や参加できる場が必要である、財だけの解決ではなく、知恵を分かち合う場をこれからは増やしていかなければと思う。

②自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり

講師 北海道 釧路市長 蝦名 大地氏

内容・・・地方分権と地方自治について、地方分権改革の変遷

・第一次地方分権改革・三位一体の改革・第二次地方分権改革

自主・自立の地方政治には地方と都市の関係性と地方財政と分権が大切。そして世界一級の観光地づくり～観光立国ショーケース・国立公園満喫プロジェクト～の立上げ、長期滞在（ちょっと暮らし）の推進・発想の転換で活かす地域資源・民間主体のビジネス化そして入湯税超過課税の活用。そこから将来を見通したまちづくりにつなげていく。

感想・・・釧路湿原を逆手にとり国立公園として皆が観光に来るように仕組んでいかれたとの事。何もないではなく無いことを武器とする。外国の方はファンタスティック！と感嘆する。自分たちでここは何もないと決めつけず、いろんな角度から地元を見ることの大切さを感じさせて頂きました。

③新たなステージに入った沖縄観光

ー複合的な魅力を有するハイブリッドリゾートへー

講師 琉球大学観光産業科学部長・教授 下地 芳郎氏

内容・・・沖縄観光の歴史を踏まえて、現状及び今後の在り方を考えてみたい。

「観光からツーリズムへ」～都市にとってのチャンス～地方都市もツーリズムの観点を持ったうえで観光振興に取り組む必要がある。観光＝レジャーという発想から脱却し、多様なニーズに対応することが今後の都市問題競争を勝ち抜くためには必要である。沖縄観光の現状は観光産業の重要性が際立っており、沖縄経済を支えるリーディング産業として観光産業への期待は高い。又、課題としては、インフラの質向上・サービスの質向上・観光地経営の質向上が必要とされている。今後「人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市」を将来像に目指している。又、「観光は平和へのパスポート」に代表される観光を通じた世界の平和研究拠点及び国際交流拠点としての取組みの強化に期待したい。

感想・・・沖縄の観光はやはり特別なものであると思う。アメリカの支配下にあった期間にいろんな違いが生まれたことは間違いなく、私たちはそのことをしっかりと学んでいかなければならない。単なる観光ではないツーリズムがそ

ここに必要となる。観光産業だけではなく、沖縄に暮らす方々のいろいろな思いを知る機会を、これからも作っていきたいと考えます。

第二日目

【パネルディスカッション】

コーディネーター	早稲田大学理工学術院教授	後藤 春彦氏
パネリスト	まちひと感動のデザイン研究所代表	藤田とし子氏
パネリスト	福井県勝山市市長	山岸 正裕氏
パネリスト	株式会社能作取締役専務	能作 千春氏
パネリスト	沖縄文化芸術振興アドバイザー	平田 大一氏
パネリスト	静岡県島田市市長	染谷 絹代氏

内容・・・これからはソーシャルキャピタル分けるという事がキーワードとなっていく、島田市長より人を育て、人が育つまちづくりを目指しているという事、人口とは量ではなく活力等で測るものである。勝山市長より、観光まちづくり会社を設立、エコミュージアム、勝山ジオパーク等を充実させている。藤田とし子氏より持続可能な活動をする人材づくりが大切である。まちづくりが他人事ではなく、自分事になる人材づくりが大切である。とのお話がありました。そして平田大一氏より沖縄復帰 50 年の 2022 年を目指し、観光産業から感動産業そして感動立県から元気となる親戚づきあいの出来る観光を目指したいとのお話がありました。その後、能作千春氏より伝統産業の復活から産業観光による地方創生を目指し職人の手元が見られる工場見学を実施するなど地域経済が活性する好循環が生まれ、日本を愛する人々を増やしていきたいとのお話がありました。まとめとして、行政が主体では続かない、行政は裏方、市民が主役になっていかなければならないとの結論とされました。

感想・・・行政と市民のコミュニケーションが大切であり、市民がプレゼン能力を高め、自分たちの足で立つ、受け身にならずに主体になっていく、そんな人を継ぐリーダーをつくっていかねばと感じました。

第二日目 午後～視察（バスにて移動）

首里城を観光ボランティアガイドの方に説明を受けながら、2時間歩いて各施設を見学させて頂きました。常にどこかを修理しながら、観光客を多数受け入れている。修学旅行生、インバウンドの外国の方々に丁寧に説明しながら、案内することで、何度も沖縄を訪れてくれるようにいろいろ仕掛けている。